

編輯室の内外

諒閣の裡に昭和二年の元旦を迎へ、昭和
新政の勅語を拜した、吾人國民は新日本を
發展せしむべく、心を新たにして勇往邁進
新時代を隆昌ならしめなければならぬ、此
心かけて正月號の發行に力めたのであつた
が、印刷所の間違から表紙を刷換へなけれ
ばならぬことゝ爲つて、送本時期の遅れた
ことは編輯同人の陳謝する所である。

新年に爲つて編輯室に飛込むて来る名士
は尠くない、イの一番に訪問されたのが例
の獨眼、牧博士であつた、昭和新政の勅語
を拜讀したかとの質問、田中編輯子速答し
て、拜讀したどころか實行してゐると言ふ
夫れならモ一少し會務に新味を見せやうぢ
やないか、イヤ東京市土木局長と爲られて
も、直ぐ港灣や下水にアナタの意見を反映

さすことが出来ないのと同じやと、何れ
も負け嫌ひ連の一回一答、スチームの前で
正月気分を現はしてゐる、併しながら兩者
の言つてゐる其の胸の裡は、本會々務を何
とかして進展せしめ度いと言ふ希望にあ
る、何れ其の内に昭和二年度の新事業を發
表する積り、何が出るか御待ちを願たい。

次に來たのが口性無い某縣知事、本誌時
評欄の筆鋒が少々鈍つたでは無いか、路政
費四十二の厄歳を迎へて、老いたかとの質
問、イヤ鈍つたのでも老いたのでもない、
思慮圓熟するに至つたのであるとの答辯、
側に此應答を聞いてゐた某高官、政黨たつ
て圓熟すると、言ふこと爲すことが鈍つて
來る改良會だつて生れて此歳で恰度十年、
モウ一鈍つて可い時分だと評す、田中路政
僧曰く、我國現時の道路を觀てゐれば、鈍
らむとしても鈍られないではないかと、之
も亦本會々務促進の聲。

久し振りに東上された佐上岡山縣知事、

編輯室に立寄つての話、毎度理事會開會の
通知を頂くが、理事會に出席して論議する
よりは任地で實際の道路改良事業をやつて
あるよ、財政緊縮のハケ間敷いこのときに
道路の大改良を實行することは出来やし
ない、夫れでも本年度は道路危險箇所除却
費と言ふ名目で拾萬圓を支出し、除却箇所
百五十に達したが、縣民一同の喜びたら素
晴らしいものだ明年度は十五萬圓を投じて
所謂「已むを得ざる道路の改良」を實行す
るのだ、之で縣下重要府縣道は安全且つ迅
速に自動車が行し得るやうに爲つて、乗
合自動車が発達し沿線地方民の受くる利益
は非常なものだ、東京にばかりゐて議論を
してゐるよりは、一度來て岡山と廣島とな
自動車で貫通して見給へ直ぐ判るよ、帝都
だと思張てゐる東京が、何も改良事業を行
はずに、交通安全チヤ一なんて何を言つてゐ
るのだ、日本文明は西から來るよと、新年
の氣焰當たるべからずだつた、併し誰かと

小聲で言つてゐた。佐上サンだつて財政緊縮の今日だて、あれ程提はれた人ではなかつたと、是が理事會での問題だつたら随分議論に花が咲いたるうに。

理事會のことなら此間開會した、丹羽七郎氏歸朝歓迎會の理事會で、理事の長岡社會局長官が、ポケットからハンカチーフを出して、松木理事の腰の太さを測つてゐる、マサカ松木理事を纏帶するのではなからうと、ワケを聞いて見ると、來る御大葬儀に必要な大禮服がないので、松木理事から、借用する交渉が成立したが、跡に合ふかドーが問題で尺とりをやつてゐる所だとのこと、水野會長君は持たないのか、私は未だ大れを着たことがないとの挨拶、一同啞然、日々新聞には長岡社會局長官大禮服事件の解決を載せてゐると言へば、あれはフロッグコートの問題であるとのこと、フロッグコートも、御持ちでないかと質せば、黒のズボン借用事件だと、將來の勞働大臣に、失禮かは知らないが誰か寄進する篤志家は無いか、あれば遠慮なく編輯子に申込まれたい、及ばずながら取次ぎの役目

を司る積り、併しなから此勞働大臣五月に國際勞働會議に、我國を代表して渡歐される想だが、その節の洋服はあるのか知ら。

新年早々編輯室に嘔鳴り込むたのは、千葉縣土木課長の宮島二郎君であつた、新年の漫畫に僕が土木主任官會議の席上で居眠つてゐる所を書いたのはケシからぬ、田中君茶目も程度があるよ、田漫畫子の筆の誤りだと言つても聞き容れない何でも縣の食堂で、一年一回の會議に出席して居眠つてゐるから、政府が補助金を呉れてやるから事業を促進せよと言つたつて判らないのだ、なぞと揶揄れたらしい、其の竹篋返しに來たのだ、會員募集の不熱心を現はす爲に書いたのたうとの質問、その趣旨は言はない方が可い、何ても特別會員を急に五十名に増加し、普通會員も五百名位になららしい、宮島君の曰く昭和二年の主任官會議には、自分の方で各府縣會員數の比較表を繕へて會議に配布するつもりである、それだけの熱心があるか知ら、併しその意氣でやつて貰ひたい。

隨分澤山に寒中見舞を頂いたが、編輯室

に飛込むで來て議論する人の相手をせればならず、遂に返禮の暇がなかつた茲に謹んで御禮を申し上げておく、序に路政僧が史料欄に筆を採らなかつたのは、例の呑み過ぎの爲めであつて謝罪しておく。

本號定價 五拾錢
一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内
發行所 社團 道路 改良 會
發行兼 上 山 陸 造
編輯者

東京市小石川區諏訪町五十六
印刷所 常 磐 印刷 所
印刷者 堀 江 關 武